

イタリア短期交換留学の報告

吉田 立

1. はじめに

本学のイタリアの協定校である国立フェラーリ工業専門学校との交換留学プログラムに沿った第1回の短期留学が2003年2月末から3月にかけて実施された。学生4名と教員2名が1ヶ月間イタリアに滞在し、工場実習等を行ってきた。筆者はこの時の随行教員として参加する機会を得たので、その顛末を記すことにする。多くの写真等はホームページ¹⁾に掲載し、リアルタイムに状況報告をしてきたが、サイトの永続を保証されるものでないので、簡単に文章として残させていただくことをお許しいただきたい。

2. 経緯

国立フェラーリ工業専門学校(以下フェラーリ校と言う)とは2000年に協定が締結されたが、これまでは夏季の研修旅行に訪問するだけであった。交換留学に関する協定は2002年4月に結ばれ、具体的な準備は、本部の企画調整室を中心になされて、10月に日程の概要が発表された。本学の学生に対して第1回の説明会が10月24日に開催され、10名以上の学生が参加した。詳細が決まるに伴いその後も何度か説明会を開催し、11月末までに募集をとりまとめ、最終4名が希望を出した。

年が明けて1月17日に日程の詳細がまとまり、表1のような行程となった。参加学生との最終確認の会を持ち、この際現地で通訳をやっていただくこととなった野田氏にも参加していただいた。参加費用は41万円に圧縮することもできた。また、この野田氏に講師をお願いして、イタリア語会話の特訓が旅行に先立つ2月18日から始まった。事前にテレビ・ラジオの語学講座で勉強を始めていた学生もいたが、半数はビギナーだった。朝から夕方まで缶詰になって、挨拶、基本語彙、主要な動詞の活用から始まり、クルマの部品名まで押し込まれた。

出発直前になって、フェラーリ本社工場が3週間研修を受ける学生をフィックスするように申し入れてきたため、3ヶ所の研修先を持ち回りですべて体験できるものと信じていた我々を吃驚させた。工場内には通訳も入れないことが判明したため、語学が少しでも堪能な2名が本社工場で研修することとし、残り2名がカロツツェリア・ザナシーとトニー・オートに1名ずつ行くことを決めた。前者は新車のオプションパーツの製造・取り付けを専門とし、後者は世界中から依頼の来た損傷修理や改造を得意として、それぞれ個性があるところだった。結果として、4名がそれぞれ

の研修先を気に入ってくれ、四方丸く収まったのが幸いであった。

3. 行 程

2月28日(金曜日)に出発して、ミラノの市内散策で時差ボケを調整しつつ、日曜日にモデナ市に到着した。ここは、ミラノとボローニャの途中にある都市で歴史も古く、ローマへの鉄道の主要な停車駅でもある。パルメザン・チーズとバルサミコ(酢)の産地としても有名である。

フェラーリ校のあるマラネッロ(Maranello)は、ここの南約18 kmにある人口1万5千人の静かな田園の街で、遙か南のアペニン山脈へ連なるなだらかな丘陵地にある。フェラーリ工場の関連産業の他は、土管・煉瓦などを作る窯業工場が畑の間に点在していて、瓦を焼く工場がある坂祝にどことなく似た環境なのには驚いた。フェラーリ校は街の中心に近い、工場と博物館との途中に位置しており、5学年制で学生数は500人程度の規模だ。ホテルをモデナに取ったため、研修先には路線バスで毎日通う羽目になった。7時半発のバスでフェラーリ校の学生らと一緒に30分以上揺られて、工場前のバス停に着いた。本数が少ない路線だったので、帰りの便も限定(5時半か6時15分頃発)されたのが、作業に慣れ興が乗ってきた学生には不評のようだった。とにかく、ここで3週間の研修が始まった。

初日(月曜日)はニコ校長との挨拶もそこそこに、配属先に連れて行かれた。筆者らはまず工場に付いていくことになり、通訳に見放されたカロツェリア組の2名は心細い限りだったという。工場受付横のホールに入ったのが、筆者も野田氏も後にも先にもこの時だけであった。工場研修は

表1 第1回短期留学の行程表

月 日	行 程	宿泊地
2月28日(金)	名古屋一(LH-737)ーフランクフルト一(LH-3794)ーミラノ	ミラノ泊
3月1日(土)	ミラノ見学 ダヴィンチ「最後の晩餐」など	ミラノ泊
2日(日)	モデナに移動(列車Eurail 591)	モデナ泊
3日(月)	研修開始 フェラーリ工業専門学校での講義・実習(週1日)	
	フェラーリ マツラネロ本社工場での作業実習 または フェラーリ関連チューニング工場での作業実習	
21日(金)	ランボルギーニの見学 等	この間 モデナ泊
22日(土)	フィレンツェへ移動(Eurail 589) 市内散策	フィレンツェ泊
23日(日)	フィレンツェ観光・ピサ斜塔見学	フィレンツェ泊
24日(月)	ローマに移動(Eurail 581) 市内散策	ローマ泊
25日(火)	ローマ観光	ローマ泊
26日(水)	自由行動	ローマ泊
27日(木)	ローマー(LH-3859)ーフランクフルト一(LH-736)ー	機内泊
28日(金)	名古屋着	

フェラーリ校の学生3名と本学の2名が一緒だったが、従事する作業は別々で、昼食の食堂で顔を合わせる程度だったという。8気筒のエンジンの組み立てと16気筒のそれに本学学生は配属された。工場内は流れ作業のラインがあるわけではなく、何人かで1つのエンジンを組み立てるようになっていたとのこと。当日割り当ての生産数がクリアできたら、仕事は終わりになる。

昼食は、工場付属の食堂で取ることができ、三々五々研修先から集まってくる学生を待って、午前中の苦勞話を聞きながら食べるのがこの後日課となった。ボリュームはタップリあり(料理2皿とパン、ドリンク)、ワインやビールが飲み物として昼間から選べるのはお国柄とは言え驚かされた。また本社工場でも特に休み時間が決まっておらず、部門ごとに仕事の段取り都合で休むらしく、食堂にそれほど列ができてたりしないのも、お国柄としか言いようがない。午後は、各カロッツェリアに挨拶に向き、翌日からはそれぞれに日参して作業の進展具合を見るのが日課となった。学校とは徒歩で数分としか離れていないので、行き来には便利だった。黒覆面をしたフェラーリの新車が、テストコースに走っていくのにすれ違うのが、最初は珍しかったが、これが日常茶飯事になっているのがマラネッロの街なのである。

学生は、月・火・水・金が工場での実習作業で、木曜日はフェラーリ校の中で5年生の実習作業に参加したり、見学に行ったりした。見学先はフェラーリ博物館、ランボルギーニ本社工場、ドゥカティ本社工場・博物館で、フィリップ教授の世話になるところが多かった。土・日は休日で、市内の散策やサンマリノやヴェニスまで日帰り旅行をした者もいるが、連日の緊張からかホテルでゴロゴロして過ごした日も多かった。鉄道料金は比較的安く感じられた。ただ、日曜日のダイヤは間引きがあったのには慌てた。

2週間目、3週間目になるにつれて、生活や作業に慣れてきたせいも、学生にもゆとりが見られるようになった。ボディランゲージが板に付いたのかも知れない。いずれにしても、クルマが大好きな学生達だから、好きなことへの順応は速い。最後の金曜日の夜に、ニコ校長主催で修了パーティが近くのレストランで設けていただけた。一人一人に研修修了証を手渡していただき、ワインで乾杯した。研修先でも涙の別れをしてきた者もいたので、各人感慨深げだった。

翌日(2月22日、土)列車でフィレンツェに移動し、2泊、続いてローマで3泊し、歴史的な遺物や美術品をゆっくりと(日本人の現地ガイドが付いていた)見学できた。最終日は朝早くのフライトでローマを発ち、フランクフルト経由の機内泊で翌朝に名古屋に帰着した。

4. 反省——まとめに代えて

3月の留学実施は、日本側の都合を考えると、この時しかない。現地の気候はほぼ名古屋と同じで、初めの頃は朝の息が白かったが、末には花も咲くような時期になった。旅行シーズンではないので、ホテル代などは圧縮できる。フェラーリ校は9月から始まった前期が終わる頃で、まとめテストの時期だった。逆にイタリアから来てもらうとすると7月になるのも、学期の違いを考えると致し方ない。もう1週間研修が長かったら良かったという学生の意見も出たが、全行程4週間は妥

当な長さと思われる。前後の(観光)旅行の日程も窮屈でなく、駅とホテル間の移動などもスムーズにいったので、引率者としては楽をさせてもらった。

派遣学生が今回4名だったのは、ちょうど研修先とも合致していて、いい具合であった。フェラーリ工場の受け入れ数が多くなれば、その分増員は可能になると思うが、かなり厳しいように感じられる。しかし、その日の予定はその朝に決まる(しか決まらない)ような雰囲気がある国なので、融通が付くのかも知れない。カロツェリアは、それぞれ離れた所に第2工場を持っているようなので、もう1名位は研修ができそうである。

ホテルが工場・学校と離れている点は改善したい。マラネッロにも幾つかホテルを見つけた。しかし、モデナのホテルは駅に近く週末の自由行動には都合が良いので、捨てがたい魅力でもある。事故の心配をしなければ、レンタカーによる移送も可能だが、本数の少ないバスというのがネックだ。

研修生に対しては、語学レベルを少しでも高めて出かけて欲しい。大部分のイタリア人は英語を使ってくれない。有名な観光地は別だが、モデナなどでは駅や博物館の切符売り場などで英語が通じるくらいで、街中ではまず無理だった。幸い、本年度はイタリア語勉強会がスタートしているので、昨年度よりは準備が進んでいる。間違ってもいいので、大声で会話をすることを希望する。

5. 附 言

滞在中に、米英軍のイラク侵攻が始まり、さらにSARS患者がフランクフルト空港に現れたとかいう危うい事件が起きた。第1回の短期留学が事故もなく終わったのは幸いといえなかった。残念ながら、今年度のフェラーリ校からの本学への留学はSARSの影響などで取りやめになった。今年度の交換留学が恙なく進行することを祈ってやまない。

留学に関して尽力いただいた本部企画調整室、本学事務局の方々に感謝する次第です。

参 考

- 1) <http://www.nakanihon.ac.jp/italy>



フェラーリ校正面



フェラーリ本社工場正門



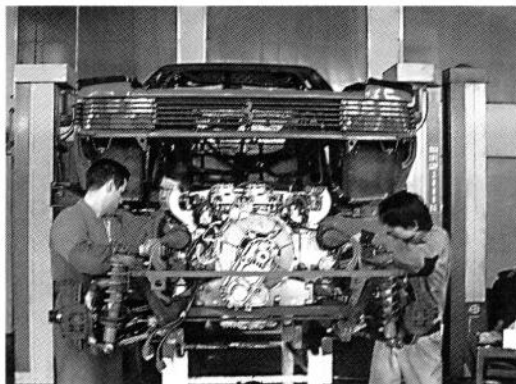
フェラーリ校の実習室（電気配線部門）



ランボルギーニ本社展示室



カロツェリア・ザナシーでの研修



トニー・オートでの研修